

コミュニティバレーボール大会競技規則（令和7年度）

令和8年1月30日

1. 規格

内 容	一般の部	小学生の部
コートの大きさ	18m × 9m	18m × 9m
ネットの高さ	2m 30cm	2m
ボール	家庭用ゴムバレーボール	レクリエーションバレー5号
アンテナ	立てない	立てない

2. 競技者

(1) 競技人数

【一般の部】 9名（補欠6名以内）

- ①常時「男性4名、女性5名」または「男性5名、女性4名」で、チームを編成する。
また、試合中の選手交代は同性同士で行うこと。

（1セットにつき3回まで、人数制限なし、再出場は認めない）

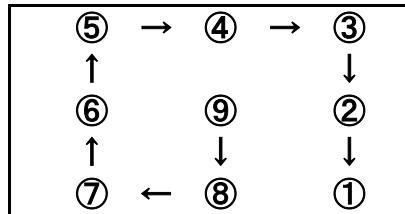
- ②大会側にて用意したビブスを着用する。

【小学生の部】 6名（補欠6名以内）

- ①男女の人数は問わない。試合中の交代は自由。何度も可。
②各チーム「ユニフォーム」または各チーム所有のビブスを着用する。

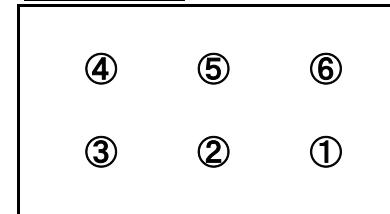
(2) ローテーション

【一般の部】



- ① サーブ権を得たとき、時計の針と同じ方向に移動する。ポジションの変更は認めない。

【小学生の部】 …ローテーションなし



3. ゲーム

(1) ゲームの形式

- ①コートチェンジは行わない。
②チームがラリーに勝ったとき、相手チームが失敗・反則したとき1点を得る（ラリーポイント制、デュースなし）。

【一般の部】

- ①1回戦～準決勝は、25分1セットとし、得点の高いチームが勝利となる。
②決勝戦は、1セット15点の3セットマッチとし、2セット先取で勝利となる。

【小学生の部】

- ① 3セットマッチでは、1セット15点とする。2セット先取で勝利となる。
- ② 1セットマッチでは、21点先取で勝利となる。

※参加チーム数によっては、セット数や点数を変更する場合があります。

(2) サーブ

- ①サーブ権は、あらかじめ主将のコントロール、またはじゃんけんによって決める。
- ②サーブは1回だけでアンダーサーブとする。助走サーブは禁止。
- ③3セット目のサーブ権は、コントロールまたはじゃんけんによって決める。

【一般の部】

- ① サーブはネットに触れたらアウトとする。
- ② サーブを打つ人は、いつもバックライトにくる人である。
- ③ 2セット目開始のサーブは、前のセットの勝者であり、サーバーも前の順序である。
サーブ権をもったチームが勝ったときは、そのまま続けてサーバーとなる。ポジションも継続とする。
- ④ 3セット目のサーブ権は、コントロール、またはじゃんけんによって決めるが、ポジションは前のセットのまま継続とする。
- ⑤ 第1セット開始後、後攻めのチームの最初のサーバーのみ、ローテーションせずにそのままサーブを行う。

【小学生の部】

- ① サーブはネットに触れても、相手コートに入ればよい。
- ② サーブは、バックゾーンまたはサービスゾーン（※競技規則最後参照）の中から打つこととする。
- ③ 2セット目開始のサーブは、第1セット開始時に行わなかったチームが行う。

(3) プレー

- ①ボールは、身体のどこを使用してもかまわない。（頭や足の使用も可）

【一般の部】

- ① 打球回数は2回以上4回以内とし、1回で相手コートに返してはならない。
但し、ボールがネットに触れた場合は5回までよい。
- ② ネットを越えて相手のコート上にあるボールに触れてはならない。
- ③ 1人が続けて2度ボールに触れてはならない。
- ④ 相手プレーヤーに触れたり相手チームのプレーを妨害したりしない限り、相手コートに踏み込んでも構わない。
- ⑤ アタックは、前衛の女子のみとする。
- ⑥ 男子は、ジャンプして相手側のコートに返球してはならない。
(アタック及びパスアタックは禁止とする)

【小学生の部】

- ① 打球回数は4回以内で相手コートに返さなければならない。
パスの途中などでボールがネットに触れても、打球回数の特例はない。
- ② 1人が続けて2度ボールに触れてはならない（ブロックは除く）。ネットに当たったボールを同じ競技者が2回続けて触れた場合は反則（ドリブル）となる。
- ③ ブロックでボールに触れたのは1回とカウントしない。
ブロックの時に限り、ネットを越してボールに触れてもよい。

（4）ボールイン・アウト

【ボールイン】

- ① ボールの一部でもコート区画線を含むコート内に接触した場合。
- ② ネット支柱の高さより高く、支柱の延長上より内側をボールが通過して相手コートに入った場合。（支柱がアンテナの代わり）

【ボールアウト】

- ・ボール全部がコート区画線の外側の床に接触した時
- ・天井や設置物を含むコート外の物体に接触した時（ネット、ロープは除く）
- ・ボールがネット下を完全に通過して相手のコートに入った時
- ・ネット支柱の高さより低く、外側を通過して相手のコートに入った時

（6）プレー上の反則（相手の得点となる）

- ・チームがサーブ順を誤ってサーブを行った時（サーブ順の誤り）
- ・サーブを打った瞬間、アタックラインやサイドラインを踏んだ時、またはバックゾーン、サービスゾーン外のエリアに触れていた時（フットフォルト）※小学生はエンドラインはOK
- ・ボールに接触中、明らかにボールが止まるようなプレーがあった時（キャッチボール・ホールディング）
- ・競技者の手や身体がインプレー中にネットに触れた時（タッチネット）
- ・ブロック以外で、ネットによって分けられた相手コート上にあるボールに触れた時（オーバーネット）
- ・相手チームのプレーを妨害する行為があった時（インターフェア）
- ・競技者やベンチにいる者が相手チームを傷つけるような言動を行った時
- ・連續してボールに触れた時

※両チームの競技者が同時に反則した時はダブルファールでノーカウントとする

（5）その他

- ① やむを得ない事情により6人または9人揃わなかった場合は、相手チームの同意が得られれば、試合を認める。
- ② 選手の貸し借りは禁止とする。また、出場できるのは、大会へ登録した人のみとする。
- ③ Bコートに限り、ラリー中にバスケットゴールにボールが接触した場合は、ノーカウントとする。

【一般の部】

①その他のルールは、一般の部（9人制）バレーボール規則を準用する。

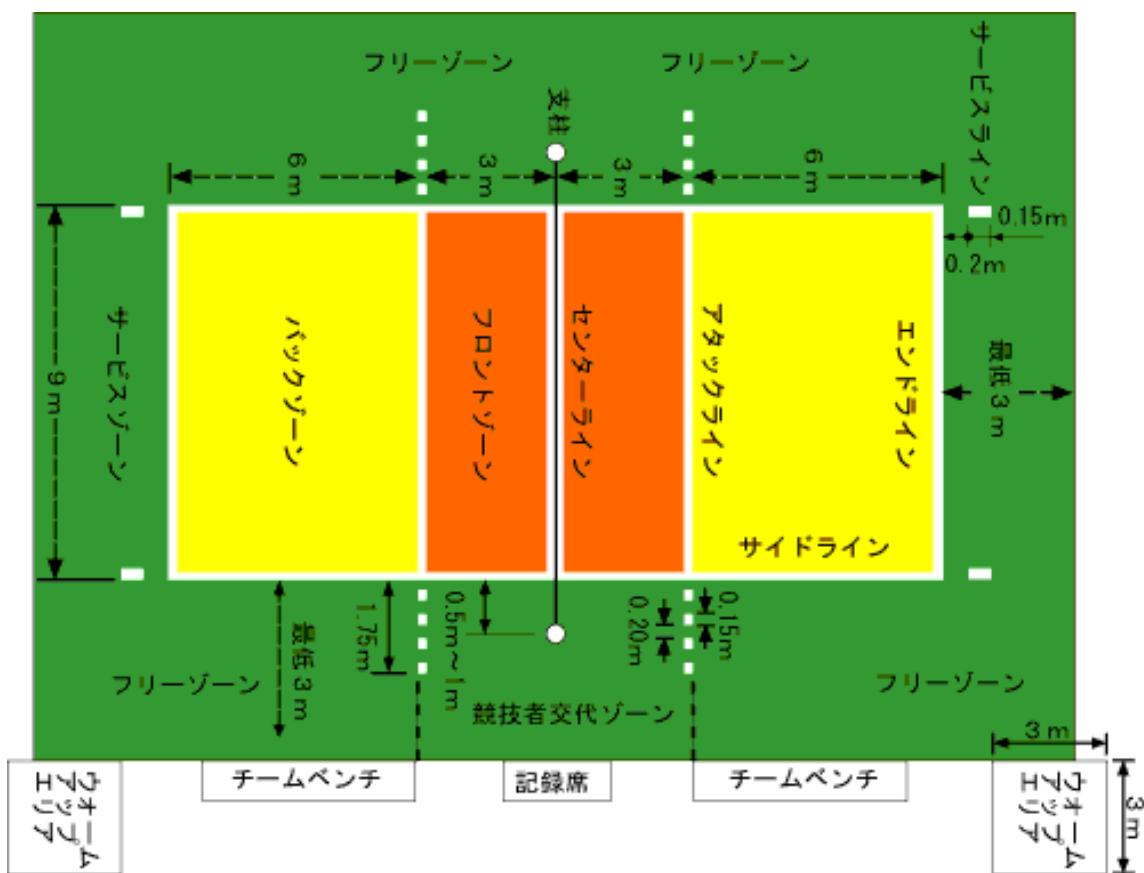
4. 審 判

・一般の部、及び、小学生の部の主審・副審、**線審**は、スポーツ推進委員が行う。

5. その他

- ①本大会は奨励大会の一環として開催しており、競技力向上を目的とした競技大会ではないため、大会開催の趣旨を理解し、楽しく参加すること。
- ②審判、競技役員の指示に従うこと。
- ③会場使用に関するマナーを厳守すること。
(シューズの履替え、ゴミの始末、喫煙場所（学校敷地内は全面禁煙）、トイレの使用、立ち入り禁止区域など)
- ④車は一般利用者、学校職員の方の迷惑にならないよう、所定の場所に止めること。

※コート図（サーブはサービスゾーンとバックゾーン内から打つものとする）



以上